

## 第9学年○組　社会科学習指導案

指導者　樋口　康彦

資料活用力育成のための手立て  
— I C T の効果的な活用を通して —

## 1 単元名　人間の尊重と日本国憲法（日本の平和主義）

## 2 目標

- 人間の尊重と法の意義及び法に基づく政治の大切さについて意欲的に追究している。  
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 基本的人権の尊重を中心とした人間の尊重についての考え方と、日本国憲法をはじめとした法との関連から課題を見いだし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。  
(社会的な思考・判断・表現)
- 収集した資料の中から、法の意義や我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることなどについての学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。  
(資料活用の技能)
- 人権が法によって保障されていること、日本国憲法の基本原理と現代社会における意義、天皇の地位と国事行為の特色について理解し、その知識を身に付けている。  
(社会的事象についての知識・理解)

## 3 単元について

## (1) 教材観

現在の社会情勢を考えてみると、ブラジルでのワールドカップ開催やその裏でのデモ、ロシアのクリミア編入問題や、中国周辺での領土や領海、資源をめぐっての争いなど、世界各地で起こっている出来事が日本でも大きく取り上げられている。グローバル化の進展と共に国家間の協力や強調などお互いの良好な関係をより意識しなければならない状況がある。唯一の被爆国である日本、日本国憲法において平和を訴え続けている日本に求められている役割は大きい。

中学校学習指導要領解説社会編「公民的分野」2内容(3)私たちの政治では、平和主義について、「再び戦争の惨禍が起こることのないように望み、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、国の安全と生存を保持しようと願い、国際紛争解決の手段としての戦争を放棄し、陸海空軍その他戦力を保持しないことを決意した」ことを意味し、「日常の具体的な事例を取り上げ、日本国憲法の基本的な考え方を理解させること」をねらいとしている。

そこで本単元では、平和主義について、現代の社会問題である沖縄の米軍基地問題を取り上げる。沖縄県民の声や沖縄県以外の日本国民の声を基に、意見が分かれていることを整理し、沖縄に負担が偏っているのではないかということを考えさせる。この対立から、誰もが納得できる解決策を見いだしていく合意へと考えをつなげていく学習活動を行う。その際、効率と公正の考えを用いながら、日本国憲法や安全保障条約のもつてている考え方や意義について理解を深めていく。

## (2) 生徒の実態

事前アンケート結果（在籍37人　調査人数36人　平成26年6月17日実施）

項目	結果
1 世の中で起きている出来事に関心はありますか。	はい 30人　いいえ 6人
2 沖縄に米軍基地があることを知っていますか。	はい 32人　いいえ 4人
3 沖縄を含め、日本に米軍基地は必要ですか。	はい 15人　いいえ 21人

実態調査から、世の中で起きていること（社会的事象）に興味がある生徒が多くいることが明らかになった。この結果からも、今回の課題でもある米軍基地問題から平和主義について考えさせることで生徒の考えが深まることが期待できる。また、ニュースや歴史の授業で習ったことを基に、米軍基地が沖縄にあることはほとんどの生徒が知っていた。日本に米軍基地が必要かどうかについては、意見が分かれるという結果だった。今回の学習活動にも取り入れた対立から合意を目指す活動は生徒の意見がぶつかり合うことも考えられ、様々な意見を通し、解決策を見いだしていくことに意義があると考える。

## (3) テーマに迫るための手立て

本時では、I C T を資料の読み取りや生徒の発表で用いる。資料の読み取りでは、スクリーンに拡大した資料を提示し、読み取るポイントを示していく。また、生徒の発表では、ワークシートを拡大させ学級全体に考えを紹介しやすくしていく。また資料活用力をいかに高めるかという点については、「なぜ～」、「何が～」といった問い合わせをすることで何を読み取ればよいのかを明らかにしながら授業を進めていく。さらに、複数の資料から読み取ったことを基に、本時の課題「沖縄の米軍基地問題」について考えさせてることで、生徒の資料活用力は高まると考えた。

4 学習と評価の計画（4時間扱い 本時は4校時）

次 時	学習内容	関	思	技	知	評価規準
一	1 文化や個性の多様性を通して、人権への関心を高める。	◎			○	具体的な事例を通して文化や個性の違いに気付き、個人の尊重の考え方への関心を高めている。
	2 人権の考え方がどのように発展したかを短文や図表に表現する。	○		◎		人権思想の発展について、必要な情報選択肢、読み取ったことを短文や図表にまとめている。
	3 大日本帝国憲法と日本国憲法を比較しながら、国民主権について理解する。	○			◎	立憲主義、日本国憲法の基本原理、国民主権と天皇の地位、天皇の国事行為の内容と特色について理解し、その知識を身に付けている。
	④ 沖縄の米軍基地問題から平和主義について考える。		◎	○		日本の安全や世界の平和について効率と公正の視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。

5 本時の学習

(1) 目標 日本の安全や世界の平和について効率と公正の視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。

(2) 準備・資料 プロジェクタ、パソコン、デジタル教科書、ワークシート、実物投影機

(3) 展開

時間	学習内容及び活動	授業形態	支援・援助の留意点及び評価方法 ○は評価の観点(方法)※テーマに迫るための工夫
5	1 本時の学習課題を理解する。  沖縄の米軍基地問題から平和主義について考えよう。	一斉	※原爆ドームや平和の碑の画像を見せ、何のために作られたのかを考えるように助言する。 ・本時の課題を確認すると共に、平和主義や憲法9条についても確認する。
18	2 資料から読み取る。 (1)なぜ沖縄に基地が置かれているのかを考える。 <予想される生徒の考え方> ・戦争に負けたから ・アメリカと条約を結んだから ・アメリカにとって、軍事拠点だったから ・中東から北朝鮮にかけて警戒が必要だから ・ハワイやグアムでは遠いから  (2)何が問題なのかを考える。 <予想される生徒の考え方> ・騒音問題 ・航空機事故 ・犯罪	個人	※教科書資料や補助資料から、沖縄に米軍基地がどれくらいあるのかを提示する。 ・「なぜ沖縄に基地が多く置かれているのか」と問い合わせ、資料の読み取りを行う。 ※なかなか読み取ることのできない生徒には、デジタル教科書をスクリーンに映し、再度読み取るポイントを示す。 ・地図資料を読み取ったり、歴史的事象を振り返らせたりしながら、沖縄に基地が置かれた理由を考えられるようにする。 ※沖縄の米軍基地の様子を見せ、視覚に訴え意欲を高めたい。また、航空機事故のニュースも紹介し、何が問題なのかという活動につなげる。 ・問題を挙げさせたことから沖縄の人の思いについて考えさせ、負担が偏っていることを気付くように助言する。
22	3 「沖縄の負担はこのままでいいのか」について効率・公正を用いて解決策を考え、発表する。 <予想される生徒の考え方> ・沖縄だけが負担するのは、公正ではない。 ・米軍基地の新しい土地を見つけるのは効率が悪い。 ・他の都道府県にある空港の土地を使ったらいいのでは。 ・自衛隊と共同ではだめか。	グループ	○主題図やテキスト資料を正確に読み取ることができる。(発表・ワークシート) ・米軍基地をめぐる意見の資料を根拠に、今後どうしたらよいかを考えるように助言する。 ・正しい答えはないので、話し合いの過程を大切にすることに助言する。 ・話し合ったことは、グループのワークシートにまとめ、考えを整理できるようにする。 ・他のグループの意見はノートに書き留めていくよう指示する。
5	4 本時の学習内容のまとめと次時の学習の確認をする。  沖縄米軍基地については、多様な考えがあり、まだ解決していない問題がある。しかし、平和を願い守り続ける姿勢は大切にしなければならない。	一斉	※ワークシートをiPadで映して発表するように助言する。 ・他の意見を聞いた上でもう一度、自分の考えをノートに書かせることで、本時のまとめとする。 ○日本の安全や世界の平和について効率と公正の視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。(ワークシート・発表) ・現在も解決していない問題であることを伝えて、今後の出来事、ニュースに興味を持てるようにする。